

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月22日(水) 14:00~15:00
- 2 開催場所 市役所本館8階 第8会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 南保勝 委員(座長)、今村善信 委員、黒川俊枝 委員、齋藤万世 委員、田村洋子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 総務部 防災センター
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 防災センター運営事業
- 5 協議の概要

| | |
|--------|--|
| 座長 | <u>防災センター運営事業</u> について、所管所属の <u>防災センター</u> から説明をお願いします。 |
| 防災センター | 【説明】 |
| 座長 | ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。 |
| 委員 | それでは、私から。入館者数の目標数値はどのような理由で出てきたのか。 |
| 防災センター | 毎年の平均が16,000人くらいである。平成3年にできた当初は全国的にも珍しく、入館者数も多かったのだが、平成8年の阪神淡路大震災以降は各地区にこのような施設ができて入館者数は減少してきたので、近年は15,500人程度を目標とさせていただいている。 |
| 委員 | 防災を啓発するためには、新規の入館者を増やしていかなければいけないと思う。新規の入館者数を何名としたほうが、累積として増えていくと考えたのだが。 |
| 防災センター | 新規だと、幼稚園、保育園、そして小学校4年生が来ている。 |
| 委員 | 自治会とか婦人会とかは一般の方は団体を中心になるので、個人が飛び込みで入ることはあまりないのか。 |
| 防災センター | 個人というよりは、団体のイベントで来られるような感じである。 |
| 委員 | 事業実績と関連事業を見ると重複しているように見えるが、どう違うのか。 |

| | |
|-------------------|--|
| 防災センター | 書き方が悪かったのだが、2 ページの委託業務内容と 4 ページの防災センター啓発事業は同じことが書いてある。 |
| 委員 | 防災センター運営事業と啓発事業は同じものなのか。予算は別なのだと思うが。 |
| 防災センター | 受付や案内などを含む防災センター全体の運営の一部をふれあい公社に委託して行っているのが運営事業、ふれあい公社に委託して防災を啓発する事業を行うのが啓発事業。 |
| 委員 | 運営事業のなかに関連事業が含まれているのか。 |
| 防災センター (危機管理室) | 資料の防災センター体系図というのを見てもらうと分かるが、防災センターの事業には大きく 4 つの事業がある。今回点検対象となっているのは、「防災センター運営事業」であり、一部をふれあい公社に委託している。そして、ふれあい公社に委託しているなかに、防災センター啓発事業が含まれている形になっている。啓発事業の費用は事務関係の消耗品等の予算となっている。 |
| 委員 | 昨年は啓発事業が点検対象になっていて、どちらがどうか聞いていても分かりにくいので、再編して一本化してひとつの事業としたほうが分かりやすいのではないかという意見がでていたと思うが。 |
| 防災センター | 自主防災のなかでも啓発事業をやっていたので、それは防災センター啓発事業に一本化した。 |
| 委員 | 「防災センター運営費」という大事業のなかで、「防災センター運営事業」、「防災センター維持管理事業」「防災センター啓発事業」と 3 つに分かれている理由はなにか。 |
| 委員 | 私のイメージだと、予算が分かっていたら、それぞれ独立しているものだと思っていたのだが。 |
| 委員 | 運営事業も啓発事業もどちらも入館者を数値目標としている。館を運営するから、イベントの経費だからと分けているが、運営と啓発一緒にできない理由はあるか。 |
| 防災センター | 委託業務なので、予算上そのように分けさせてもらっている。 |
| 委員 | 運営と啓発を一括して委託すればよいのではないか。切り離している理由がわからない。 |

| | |
|--------|--|
| 防災センター | 啓発事業には、センター職員が提案したり共同でやったりする部分がある。 |
| 委員 | 目標数値が入館者で書かれているが、啓発事業をこれだけ行ったから入館者が増えたというのは分かるのだが、運営事業では入館者数はあまり関係してこないように思うのだが。 |
| 防災センター | この入館者数については、ただ受付、案内をしたというよりも、研修会に参加してもらったり、何らかの防災研修を受けていただいた方の数。 |
| 委員 | それは、啓発事業の成果だと思った。 |
| 委員 | なぜ委託料が上がっているのか。来館者数に応じての費用なのかと思うが、1人あたり啓発するのに1,600円かかるのが妥当なのかどうか。 |
| 防災センター | 委託先のふれあい公社の見積もりによる。 |
| 委員 | ふれあい公社の人件費が上がったら上げるのか、他の業務委託では、個々の委託先の人件費増は考慮しないと思う。ふれあい公社に委託する特別な理由があるのか。 |
| 防災センター | 防災センターは市民の安心安全のため、公的機関が担うべき性格と考えふれあい公社に委託している。一般競争入札のような形はふさわしくないと考えている。 |
| 委員 | 事業を細分化しすぎていて、もっと合理的、効率的にならないかと思う。行政の事業全般にいえることだが、民間から見るとかえって大変。 |
| 委員 | 11/9に講演があるが、啓発事業として実施するのか。団体でチラシをもらったが毎回いい内容なので、市政広報など一般の人をもっと参加できる方法はないか。知らない人に広める方法を取れば。 |
| 委員 | 啓発事業はふれあい公社が市の指導を受けながら実施するのか。 |
| 防災センター | 市が講師やテーマ等を決めてふれあい公社に委託している。 |
| 委員 | 広報や人集めの部分でふれあい公社がもっとやってもいいのでは。 |
| 防災センター | その役割もある。 |
| 委員 | 啓発事業はお互いに担当していることによって依存関係にあり、境界、責任の所在がわかりにくい。全体にすっきりした形にすると今よりもうまくいくので |

| | |
|-------------------|---|
| | は。 |
| 防災センター | メリハリをつけ、責任分担を明確にする。 |
| 委員 | 事業の簡素化を図るべきだという印象をもった。 |
| 委員 | 全く別の質問だが、設備は更新されているのか。 |
| 防災センター | 一部展示物を更新している。基本的な体験施設についてはまだされていない。 |
| 委員 | 大波と津波の違いを見られるような設備が県外に結構ある。新しい展示物を作り広報すると人も来ると思う。最先端の人を呼ぶための費用もあり、維持の費用もあるとなっているとわかりやすいのでは。 |
| 防災センター | 防災センターにも大型スクリーンで体感できるような設備はあるが、ソフトが古いので更新していきたい。また、センターに呼ぶばかりでなく、出前講座もやっていく。 |
| 委員 | 出前講座で地域にきてもらうのも大切だと思う。もっと回数を増やして、宣伝もしてほしい。これから推進する予定は。 |
| 防災センター | 防災センターのホームページでもお知らせしている。記載している回数はふれあい公社の実施回数。地域の自主防災会には市の職員がうかがう。 |
| 委員 | 地区で依頼をすれば来てくれるということか。 |
| 防災センター | そうである。 |
| 委員 | 松本地区は自主防災会未結成がまだあるが、指導はどうしているのか。 |
| 防災センター | 福井市全体の結成率は96%。アパートやマンションなど出入りが激しいところは、なかなか結成していただけないが、地区の連絡協議会の会長に促していく。 |
| 委員 | 機器の更新など新しい取組をすれば人は来ると思うが計画はあるのか。 |
| 防災センター (危機管理室) | できた当時は画期的だったが、現在は維持管理、安全確保が精一杯。目新しいものを作ると来てもらえるが、防災センターはアミューズメント施設ではないので、人がたくさんくればいいというだけではなく、防災の知識をみなさんに持ってもらうのが一番だと思う。研修に特化し、機器の更新については、たとえば子どもを対象にするなど考え方を整理したい。 |

委員

向かうべき方向を考えてほしい。

委員

センターの入口からひきつけられるようなものがあるといい。

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

座長

委員会結果は「維持（要改善）」となった。「維持（要改善）」のご意見の委員が4名、「再構築」統合再編とした委員が1名いた。維持とされた方も再構築とされた方も言っているところは同じで、もう少し事業の中身を統廃合したほうが事務担当者としても楽になるのではないかという前向きな意見である。

根底にはこの事業が担う、防災意識の啓発というのは必要であるから、それは続けてもらわないといけないという意見はみんな同じ視点なのだが、再構築と維持で評価が変わったのは、効率性、有効性、効果性についてどこまで求められるのかという部分について、もっとやるべきだと思う委員と、それはそうとしながらもこの事業は大事だから前向きに取り組んでいただきたいという委員に分かれたということだと思う。

委員会の結論としては「維持（要改善）」ということで、一部改善しながら事業をなるべく効率的にやっていっていただきたい。

意見、提言としては、効率性、有効性、効果性をもっと高めるという意味で、先ほど啓発活動が主であるということに対しては我々も感銘を受けたが、人間はやはり引き付けるものがないと興味を持たない。恐竜の展示のような例もあるので、設備の更新なども視野に入れながら、人の心を見た目で打つような、仕掛けもあってもいいのではないか。また、一般の方にこういう啓発活動をやっているということが伝わっていないので、広告とかPRの方法をもっと考えてもらいたいというご意見や、現在、ふれあい公社に全面的に委託しているが、純粋な民間委託も一度検討してもいいのではないかという意見もあった。

結論としては「維持（要改善）」であるが、これは事業の必要性を認めつつ、運営者、事務担当者の負担を軽くするため改善が必要であるという意味である。

以上である。

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月22日(水) 15:05~16:05
- 2 開催場所 市役所本館8階 第8会議室
- 3 出席者
- (1) 委員 南保勝 委員(座長)、今村善信 委員、黒川俊枝 委員、
齋藤万世 委員、田村洋子 委員
- (2) 点検対象事業担当所属 企業局 ガス・水道お客様課
- (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 ボトル水販売・宣伝啓蒙事業
- 5 協議の概要

| | |
|-----------|--|
| 座長 | <u>ボトル水販売・宣伝啓蒙事業</u> について、所管所属の <u>ガス・水道お客様課</u> から説明をお願いします。 |
| ガス・水道お客様課 | 【説明】 |
| 座長 | ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。 |
| 委員 | 極力、今日のような市に関する会議等で、お茶の代わりに「ふくいおもてな水」を使うようにしてもらいたい。 |
| ガス・水道お客様課 | 外部点検に使用するためのご注文をいただいていたが、今年の分については完売してしまっており、今回は提供できなかった。 |
| 委員 | 福井のお米を販売しているところにこの水を併せて売り出すような方法で、東京・大阪に宣伝して行ってほしい。 |
| ガス・水道お客様課 | いろいろいただいたアイデアを今後に生かしていきたい。 |
| 委員 | 無料配布分を除いた、おいしいふくいの水の実際の販売量はどれだけか。 |
| ガス・水道お客様課 | 無料配布というのは、水道展の来客に対して利き水として提供するような場合で、数量にして1千本程度である。 H23年度を例に挙げると、41,222本のうち39,753本が実際の販売量である。 |
| 委員 | 事故の影響で売り上げが落ちたという事情はあるのかもしれないが、民間的な考えだと、この事業はもう成り立たないというふうを感じる。 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>災害用備蓄水販売について、防災の啓発活動等は防災センター等が担うもので、企業局が予算を持ってしなければいけないものだとみんな思っていないと思うが、どういった目的で企業局がこの事業を行っているのか。企業局の、それもガス・水道お客様課が、防災グッズを扱ったり、防災のために事業を行ったりしていることに、とても違和感がある。</p> |
| ガス・水道お客様課 | <p>災害用備蓄水については、今後製造はせずに、在庫分を販売、提供したのち終了する予定である。</p> |
| 委員 | <p>事業の目的に、「市民への防災意識の啓発を図る」とあるが、こちらはもうよいのか。</p> |
| ガス・水道お客様課 | <p>そちらは、H19年度からH25年度までの当初の目的であり、H25年度1年間かけて考えた結果、H26年度以降は「ふくいおもてな水」を福井市の観光PRに使ってってもらうことを目的とするように変えたということである。</p> |
| 委員 | <p>何点かお尋ねする。</p> <p>まずは、福井市は、なぜここまで水に対してこだわるのか。</p> <p>次に、全国的に見て、自治体が飲料水の販売を行っているようなところはあるのか。</p> <p>次に、「水道水」を販売する理由は。ペットボトルに詰める際に殺菌はしているのか。</p> <p>次に、各飲料メーカーがスーパー等で安く飲料水を提供しているが、それでもやっていけるのかどうかを教えてください。</p> <p>最後に、飲料水販売については、事故によって一度信用が失墜している状況にあったと思うが、現在は、その信用を取り戻してきているのか。</p> |
| ガス・水道お客様課 | <p>まず、全国で飲料水をボトル化して販売している自治体数は132である。そのうち71都市は、原材料に水道水を使用している。ちなみに、北陸三県では、金沢市と富山市が水道水を採用している。</p> <p>飲料メーカーの安い飲料水に対抗していけるのかということについては、福井市が水道水のボトル水を販売する目的として、次の世代の子どもたちに、福井市の水道水はおいしいということを伝えるということが一つある。もう一つは、国体を控えて全国大会も多く開かれるので、そこで無料で配布して福井市をPRするという事も考えている。</p> <p>現在、PRに十分に活用してもらいたいということと、不要な在庫を抱えずに黒字化するということから、各課に来年度の必要数を聞いて回っているところである。製造の本数を厳しく見極めながら、需要を増やしていきたい。</p> |
| 委員 | <p>そのように制限すると、市民として、この「おもてな水」を飲みたいと思ったときに、手に入らない状況が考えられるが、よいのか。</p> |

| | |
|-----------|--|
| ガス・水道お客様課 | <p>「おもてな水」をたくさん売ることが目的ではないため、積極的な販売はしていないが、賞味期限は2年あることも踏まえ、適正な製造をしていきたい。</p> |
| 委員 | <p>殺菌はきちんとされているのか。</p> |
| ガス・水道お客様課 | <p>もちろんである。 水道水を使用する理由は、工場まで水を運んでも塩素殺菌された状態が保たれるためである。 和歌山県のサカイキャニングという会社に製造を委託しており、水をそこまで運ぶのに4時間ほどかかるが、出発時と到着時の塩素分の数値はほぼ変わらないという結果が出ている。 こういったことから、より安全性を高めるために水道水を使用している。</p> |
| 委員 | <p>先ほど、全国で132都市が水の販売をしているということでお聞きしたが、県内では、例えばどのようなものがあるか。 というのは、国体時のPRを考えたとき、県内には、例えば若狭の瓜割の水のようにおいしい湧き水等があり、県外の方は、福井市の水道水よりもそういったものを選ぶのではないかという思いがある。また、1本100円で小さいもの(※ おもてな水は350ml ボトル)というよりも、120円で少し大きいものの方がよいなどということも考えられる。 「国体」という観点でいくと、県内にもっとおいしいものがあつたら、県外の方はそちらに流れていってしまうのではないかという懸念がある。 もう一つ、大阪の事例であるが、大阪の水は昔すごくまずくて飲めないと言われていたのが、最近はすごくきれいになって、水道水が飲めるということをいろいろなところでアピールしている。特にボトル水を販売しているというわけではないので、ボトル水販売というアピール方法でなくても福井市の水道水をアピールすることは可能なのではないかと思う。</p> |
| ガス・水道お客様課 | <p>水道水のアピール方法については、今後、いろいろなチャンネルを使い、福井市民の皆様に、福井市の水はおいしいということをPRしていきたい。 若狭瓜割の水についてであるが、実際高浜町にあり、こちらのボトル水は災害用として製造しているものであり、観光用に広く販売しているものではない。</p> |
| 委員 | <p>スーパーで販売しているのを見かけるが。</p> |
| ガス・水道お客様課 | <p>同じボトル水の販売でも、自治体が製造に関わっているものと、メーカーで製造しているものがある。スーパーで見かけるのは、メーカーが製造しているものだと思う。</p> |
| 委員 | <p>地名等つけて販売しているものは、そちらのいう132の自治体以外に、メーカーが製造しているものも含め、もっとあるということか。</p> |

| | |
|-----------|---|
| ガス・水道お客様課 | そのとおりである。種類は別として、販売量に関しては、民間のメーカーが圧倒的に多い。 |
| 委員 | 京都は琵琶湖の水を使っているが、琵琶湖の水は軟水である。「おもてな水」は軟水か。 |
| ガス・水道お客様課 | 軟水である。 |
| 委員 | 福井の水自体が軟水なのか。 |
| ガス・水道お客様課 | 福井の水は、おいしい軟水である。 |
| 委員 | 先ほど、事業の目的が変わっているという話をしていたが、現在の事業の目的を教えてください。 |
| ガス・水道お客様課 | 一つは、おいしい福井市の水道水をPRすることである。 もう一つは、県外での出向宣伝やコンベンション誘致活動などで、おいしい水を活かした食や美しい景観をPRするとともに、「朝倉ゆめまる」の認知度を向上させることである。 |
| 委員 | そうすると、ドライミストを続けている理由は何か。 |
| ガス・水道お客様課 | ドライミストを実施していた理由としては、水道水の多種多様な利便性を示すというのが一つの目的であったが、福井市にも随分ドライミスト設置箇所が増えており、「清涼感溢れる水の使い方の提案」という使命は達せられたかと感じている。 |
| 委員 | そのあたりの状況も踏まえると、おいしいという方のPRに特化した方が、今の事業目的から考えて、事業としてもっとよくなるのではないかなと思う。 民間にそれだけ浸透しているという状況にあるのなら、ある程度行政としての役割は果たしたという判断をしてもかまわないのではないかなと思う。 |
| ガス・水道お客様課 | ドライミストの機材を契約業者から毎年リースしているが、機材も古くなってきており、来年度の予算ではどのようにするか、所属でも迷っているところである。 |
| 委員 | 例えばドライミストの分の予算をPRに使えるなら、予算の使い方として、事業目的に沿っているのではないかなと思う。 もう一つお聞きしたい。 方向性を「維持」としているが、どの年の予算と比較して維持なのか。その年その年によって予算額が大きく違っているのに、今年度の予算がどのくらいで、どのくらいを維持したいのかを教えてください。 |

| | |
|-----------|--|
| ガス・水道お客様課 | 今年度はボトル水を6,000本製造しており、予算としては1,296千円であった。来年度は、予算措置としても今年度以上をと考えているが、製造量をもう少し増やし、製造した分について完売できるようにしていきたい。 |
| 委員 | 企業局として黒字化へのプレッシャーは大きいと思うが、民間やおもてなし観光推進室のような、一回に何本必要か読みにくいところの発注にも柔軟に対応していけるようにしていただきたい。 |
| ガス・水道お客様課 | そのようにできるよう努力していきたい。賞味期限は2年あるので、それも念頭において積極的に取り組んでいきたい。 |
| 委員 | イメージとして、水の販売というよりも名刺を刷っているというように感じる。大きな赤字が出ては困るが、福井のいいところを紹介する目的で名刺代わりにお配りするというように使うのなら、それはそれで目的として相応なのかなと思う。 |
| 委員 | ノベルティーという観点で考えて、製造量を増やした方が1個あたりのコストは安くなっていくと思うが、今100円で売っているものを80円ないし50円で売っていくとすれば、手を挙げるところも出てくると思うから、PR効果は大きくなると思う。そういったところも考慮に入れてほしい。 |
| ガス・水道お客様課 | おっしゃるとおりであり、福井国体の前年や事業年には、そのような考え方でやっていくことも視野に入れたいと考えている。 |

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

| | |
|----|---|
| 座長 | <p>委員会結果は「拡大」となった。事業内容や対象等更に拡大すべきであり、事業費の拡大も止むを得ないというとても前向きなご意見をいただいた。</p> <p>さすがに企業局だけあり、非常にリアリティーのある事業計画を立てて、需要をきちんと見込んでやっておられるが、事業の最大の目標は福井市のPRだろうと思う。おいしい福井の水プラスアルファのところでシナジー効果をもっと引き出せたら、言うことはない。企業局だから採算性をということもわかるが、それを少し度外視した形で、もっとこの水を販売してもらうことで、福井市をPRしてもらいたいという結論に達した。</p> <p>条件としては、ドライミストについてはもうやめて、そこに無駄なお金を使うなら、その分をPRの方にまわしてもらって、もっと大量に作ってコストを下げるとか、期限も2年ももつということなので、そのあたりを考慮しつつ、福井市を売っていけるツールにしてもらいたい。これを当委員会の結論とさせてもらう。</p> <p>以上である。</p> |
|----|---|

平成26年度 外部点検 会議概要

- 1 開催日時 平成26年10月22日(水) 16:05~17:05
- 2 開催場所 市役所本館8階 第8会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 南保勝 委員(座長)、今村善信 委員、黒川俊枝 委員、齋藤万世 委員、田村洋子 委員
 - (2) 点検対象事業担当所属 企業局 ガス・水道お客様課
 - (3) 事務局 総合政策室
- 4 点検対象事業 水道料金徴収事業
- 5 協議の概要

| | |
|-----------|---|
| 座長 | <u>水道料金徴収事業</u> について、所管所属の <u>ガス・水道お客様課</u> から説明をお願いします。 |
| ガス・水道お客様課 | 【説明】 |
| 座長 | ただいまの説明に対し、何か質問等はないか。 |
| 委員 | ガス料金と下水道料金の徴収業務を一緒にすることはできないのか。 |
| ガス・水道お客様課 | ジェネッツ(委託事業者)において、一緒にしている。 |
| 委員 | 別々に記載されているが、母体は一つという考え方でよいのか。 |
| ガス・水道お客様課 | それでよい。 |
| 委員 | H25年から外部委託を始めたのはなぜか。 |
| ガス・水道お客様課 | 2年間検討を重ね、外部委託を始めた。 福井市と同規模の自治体の7割が外部委託をしているという状況であり検討を始めたが、県内初であったので、通常市内の業者を優先して委託するものであっても、実績のある業者がなかった。 プロポーザルにおいて、金額が安いということだけでなく、市内に営業所を作り従業員の9割が市内に家族とともに暮らしているということ、民間になることでのプライバシー保護に関する不安を払拭するという点で個人情報保護士が配置されているということ等を評価してジェネッツに決まった。 |

| | |
|-----------|---|
| 委員 | 民間委託したことにより、クレームの件数は減っているのか。 |
| ガス・水道お客様課 | 指針の見間違いによる異常値に気づいて、ジェネッツの方からお客様に謝罪に行ったという案件がつい最近あったが、5万件に1件のことである。 小さなクレームとしては多少あるが、大きなクレームはない。 |
| 委員 | 電気はスマートメーターになって自動計量ができるという状況にあと3~4年でなるかと思うが、水道やガスについては今後そういった見込みはあるのか。 |
| ガス・水道お客様課 | ガスについては、すでに100件ほどが、雑居ビルの玄関に行けば全て見られるという状況にある。 水道は、一部大きなマンションで行われているが、個々のメーターの入替時に集中検針盤も入れ替えなければいけないといった問題が起きているので、今後委員がおっしゃられるような新しいメーターがでてきた場合には、前向きに考えていきたい。 |
| 委員 | 滞納者に対する督促や供給停止について、先ほどの説明では、20回お客様に会われてから止めているということであったが、福井市の滞納率は全国的に見てどのあたりなのかということ、あとこの中で生活保護世帯はどのくらいであるのかということについて教えていただきたい。 |
| ガス・水道お客様課 | まず、全国的に見て福井市の滞納率はどのくらいかということについてであるが、福井市のような県庁所在地の中では低い方である。 次に、生活保護世帯がどのくらいを占めているのかということについてであるが、生活保護費には、水道料金が計上されているため、慎ましやかな生活をしている世帯が必ずしも滞納世帯というわけではない。 |
| 委員 | 景況を見る指標である水道の利用状況は、どのくらい遅れて発表されるのか。 |
| ガス・水道お客様課 | 毎月の配水量については、浄水場で前日の出量がわかるので、翌月の1日2日には前月の配水量はわかると思う。 ちなみに、水道、ガス併せて、議会の決算特別委員会のあとにホームページで公開している。 |
| 委員 | 1年に1回か。 |
| ガス・水道お客様課 | そうである。 |
| 委員 | 水道管の腐食に対するメンテナンス費用などは、いずれ水道料金に跳ね返ってくるのか。 |
| ガス・水道お客様課 | 今までの水道事業は拡張事業に重きをおいていたが、現在は整備事業に重点を |

| | |
|-----------|---|
| 委員 | <p>置いており、耐震化等を進めることで、大きな補修が必要になることを防いでいる。</p> <p>工事についてであるが、ガスと水道を一手に担当されていると思うが、工事は別々に行われている現状が多く見受けられる。同じ場所で、ガスの工事だけ行い、またしばらくしたら水道の工事を行うというような状況である。</p> <p>ガスと水道の工事を一緒に行うことはできないのか。</p> |
| ガス・水道お客様課 | <p>老朽化に伴う工事というのがガスも水道も多いが、同時に管を入れ替えるという場合は、もちろん同時に行っている。なるべく同じところを掘り返したりすることがないようにしているが、時間がかかっていることへの苦情等もあるので。</p> |
| 委員 | <p>事業を推進する上での悩み等あるか。</p> |
| ガス・水道お客様課 | <p>あえて申し上げますと、将来的な委託業務のデメリットとして、委託側の料金徴収業務のノウハウ、知識、経験を持つ職員が今後減少していくことが予想される。</p> <p>委託業務の指示監督といった全体的な責任は企業局にあるので、指示監督を適切に行うために、職員間の事務の引継ぎやマニュアルを整備して、将来にわたって業務に支障がない体制を構築する必要があると考えている。</p> |

～～ 委員同士での協議 ～～

～～ 総括 ～～

| | |
|----|---|
| 座長 | <p>結論から言うと、「維持」という意見が多数であり、委員会結果としては「維持」となった。中でも、このままでいいという委員が3名、1名はもっと改善していつまでもおいしい水を提供してほしいというもので、悪い点はない。残り1名はさらに拡大して、もっと事業内容を充実してほしいという意見であった。私としては、顧客満足度の充実を図っていることや改革を進めているなどの点は、他の事業が見習うべきことを実践しており、現状維持で十分であり、高評価である。</p> <p>ただ、意見としてこういう意見も出たということで、スマート機器といった新しい機器の導入についても、費用対効果の関係もあるが進めていただきたいと思う。また、委託業者の専門員の技術面が落ちていくことを避けるために、市から出向して現場での指導を考える必要も出てくるのかもしれないといった意見・要望がある。</p> <p>最後に、点検結果は、「維持」の現状のままで、今後も取組を進めてほしいということである。</p> <p>以上である。</p> |
|----|---|